

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500081		
法人名	特定非営利活動法人 熊毛清風会		
事業所名	グループホーム おかでら荘		
所在地	山口県周南市大字樋口262番地1		
自己評価作成日	平成28年 5月 27日	評価結果市町受理日	平成28年11月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年6月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、利用者様が安心して安全に暮らせるよう計画に基づいたサービスを提供しています。又、地域密着型施設として地域との交流、参加に力を入れています。環境として小学校に隣接、近所に幼稚園、少し歩けば烏帽子ヶ岳が一望出来る最高の環境の元、サービスを提供することが出来ます。窓を開ければ元気な小中学生の声、鳥のさえずりが聞こえて来ます。幼稚園児、小中学生との交流が多々あります。当法人では、我が家で暮らして出来なくなった事を、利用して頂くにあたり第二の我が家として職員のサポートで可能にする取り組み、元気に我が家で暮らしていた頃のように、いかに普通にできるか、可能にするかに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎週金曜日を「カレーの日」とされ、利用者と一緒に昼食のカレーをつくり、地域の人にも参加を呼びかけておられ、毎週地域の人の来訪があります。事業所に隣接している小学校からは、全学年を対象として体験学習に来られ、保護者にも事業所の理解が深まるように取り組まれている他、音楽療法に使う楽器の寄付の申し出があるなど、地域とのつきあいを広げておられます。毎月、事業所独自に考案された「虐待リスクアンケート」を全職員に実施され、虐待や拘束の未然防止やケアの見直し、充実に役立てておられます。管理者や施設長は、意見箱の設置や個人面談等で職員の意見を聞いておられ、主任制度や役割分担を実施して職員の資質の向上に努めておられます。理念を常に意識しておられ、ケアに活かせるようにと考えられた新理念の提案や「おかでら喫茶」の取り組みなど、職員の意見や提案を運営に反映しておられ、サービスの質の向上の居取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に対する取り組みを職員全員で話し合い玄関内に掲示して意識統一を行っている。又、毎月そのうちの1項目を施設内研修にて1ヶ月目標とし、振り返りを次施設内研修にて行っている。	これまでの事業所独自の理念が長文であったため、「敬意、受容、笑顔、スキンシップ、馴染みの環境」を理念とし、ケアに活かすことが出来るようそれぞれの具体的内容を話し合い、事業所内に掲示して共有している。毎月理念の項目の一つを月目標として取り組み、月毎に全職員で反省して理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の機会も増え地域の方とのふれあいも多くなった。幼稚園児、小学生生徒との交流も今まで以上に増して来ている。	施設長は自治会総会に出席して、事業所の活動報告をしている。利用者は地域の盆踊りや近くの小学校、幼稚園の運動会に参加している。事業所で毎週金曜日に実施している「カレーの日」に必ず来訪する人やソーメン流しには、子どもから大人まで多くの来訪者がある。ボランティア(フラダンス、日本舞踊、和太鼓、音楽療法、傾聴など)、レクリエーション(昔話、紙芝居)を兼ねた介護相談員、お遊戯発表の幼稚園児との交流がある。小学校1年生から6年生までの体験学習や中学生の職場体験、高校生の介護実習を受け入れている。散歩時や買い物時には地域の人と挨拶を交わし、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア受け入れ、幼稚園児、小学生生徒との交流にて認知症の方の理解や支援の方法を知って頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に施設内研修にて外部評価の意義を説明し、自己評価は全職員対象に実施した。	施設長は評価の意義を職員に説明し、前年度の自己評価記録と共に自己評価をするための用紙を全職員に配布し、記入してもらいまとめている。自己評価を日々のケアを振り返る機会と捉えている。前回の外部評価を受けて、目標達成計画をたて、全職員による自己評価への取り組み、計画的な内部研修の実施に向け、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(第2金曜日)運営推進会議にて利用者の状況、ヒヤリハット事故、行事の実施報告、評価の項目に沿った内容話し合っている。朝礼・施設内研修にてそれらを盛込んだ内容としている。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の近況報告、行事報告、ヒヤリハット報告、事故報告、災害対策の現状、外部評価報告の後に意見交換している。事業所パンフレットの内容についての意見や「徘徊」のとりえ方についての意見交換、音楽療法用の楽器の寄付を受けるなど、会議で出た意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から地域包括支援センターの方や、疑問に思った事は市の職員に確認を取り運営している。特に運営推進会議はよりよい場とし協力関係構築に努めている。	市担当者とは運営推進会議時の他、直接出向いて情報交換や相談を行い助言を得るなど協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話等で情報交換したり、事例の相談を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	無断外出の可能性のある人に対する支援の見直し、あり方を施設内研修にて未然に話し合って防止に努めている。常日頃の朝礼にて報告・相談・実施・結果まで繋げている。マニュアルの徹底と活用を行っている。	「身体拘束に関するマニュアル」があり、施設長は内部研修や朝礼時等、機会あるごとに話しており、職員は身体拘束の内容や弊害について理解している。毎月、事業所独自の「虐待リスクアンケート」を全職員に行い、利用者個々のケアにおける虐待リスクの有無を確認し、介護計画作成に反映するなど、虐待の未然防止に努めている。玄関は施錠をしないで、出かけたい利用者とはそのつど職員が一緒に出かけるなど、拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては施設長や管理者が気づいた時に指導をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの徹底と活用が出来ている。計画見直し対象者に対し、全職員アンケート形式で今現在の支援が第三者の視点として虐待に繋がる、見られてもおかしくないことを浮き彫りにし計画に反映するかどうかを計画作成者と補佐で精査している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアプランを元に、個々の支援統一と自立度等を職員さんが理解したうえでの支援に取り組んで頂いる。現在、成年後見人制度においては1名利用されている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、入居契約書を元に十分な説明と納得を得ている。利用者様、ご家族に不利益がこうじる事の無いよう十分に行えている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に基本利用料現金払いとし、ご家族に入居者さんの報告や相談・苦情を言える機会を多く持っている。意見箱の設置。運営推進会議を利用し外部の方からの案も反映させている。	苦情相談の受付体制や担当者、苦情解決責任者、処理手順を定め、第三者委員、外部機関を明示して、契約時に家族に説明をしている。面会時や月1回の利用料支払いに来訪時、運営推進会議時、行事参加時、電話等で直接聞いている。意見箱を設置している。家族からの意見や要望は業務日誌や申し送りノートに記録して職員間で共有している。家族には2ヶ月ごとに事業所だよりを送付し、意見や要望が言いやすいように工夫している。家族からは、利用者の状態変化に対する医療やケアへの相談や要望、個別ケアに関する相談や要望があり、その都度対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼、毎月10日の施設内研修にて皆さんで自由に発言できる場を設けて皆さんで考え反映している。アンケート形式での意見箱の活用。主任制度の充実を行っている。	施設長や管理者は毎日の朝礼時や毎月の職員会議(内部研修)で職員からの意見や要望を聞く機会を設けている他、全職員に「業務改善アンケート」の実施者意見箱の設置、施設長が個人面談を行い、意見や提案を聞いている。ユニットごとに主任を設けて、現場での意見や提案、気づきを主任を通して気軽に言えるようにしている。職員からは理念を日々のケアに活かすために分かりやすい文言に改善することや利用者をお客さんにした「おかでら喫茶」の開店などの意見があり、運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ管理者も現場に出て状況把握に努めている。地域貢献、ボランティア活動、子育て等推進している為、希望休を優先している。又、手当での充実も行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設全体での現状・職員の能力に見合った内部研修内容になっている。1人1人職員の能力・力量に見合った外部研修に参加している。	外部研修は職員に情報を伝え、本人の希望や段階に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は報告書を提出して内部研修の場で復命し、資料は閲覧して全職員で共有している。内部研修は、年間計画をたて管理者と施設長が講師を務め、月1回の研修日や毎日の朝礼時に随時実施(理念、虐待防止、食中毒、感染症、介護計画、避難訓練、復命・伝達等)している。新人研修は主任と共に日々の業務を行い、介護の知識や技術が学べるように取り組んでいる。主任制度を設けたり、職員に7つの役割(行事起案、誕生日会、展示物、施設内研修書記、主任補佐、事業所便り作成)を分担して、職員の質の確保や向上に向けた育成をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修にて交流する機会を作っている。理事長が同業者の運営推進委員となっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまでに管理者が利用者さんと面談し要望・不安を事前に取り除いている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族による事前見学にて不安や要望等も聞き契約の段階でしっかりと信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事の相談、介護保険制度のしくみを説明し、ケアマネージャーと連携をとり速やかに対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	機能訓練を兼ね、出来る事は行って頂く支援を行っている。家事、洗濯物干し・たたみ、料理の下ごしらえ等、協働して出来るように取り組んでいる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、基本利用料は現金払いのため、ご家族が来荘されます。入居者様と会話され、状態報告、ご家族からの要望、ご家族へのお願い等が密に行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽な面会、外出支援や、ボランティアの方のイベントなどが多く、関係作りに努めている。	家族の面会や親戚の人、兄弟、近所の人 の来訪があり、年賀状や礼状の手紙、携帯電話での交流を支援している。馴染みのスーパーマーケットでの買い物やお寺での法要、元大工の利用者が施工したお寺を見に行ったり、家族の協力を得て、馴染みの美容院や一時帰宅、結婚式や法事への参加、墓参り、買い物、外食など馴染みの人や場との関係が途切れないように支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中状態変化のないかぎり、フロアーにて過ごしていただけるよう声かけや様々な取り組み(テレビ鑑賞・パズル・かるた・散歩等)で雰囲気づくりに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去届にて、明記している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝の朝礼にて入居者さんの意向、希望、思い等があれば皆で検討し把握に努めている。日常の会話、表情、動き等から本人の想いをくみとり、介護計画に盛り組んでいる。	入居時に本人や家族から生活歴を聞き取り、フェイスシートや「私の姿と気持ちシート」を活用してアセスメントを行っている他、日常の関わりの中での言葉(行きたい所ややりたいこと、食べたいもの等)や行動、表情を個人日誌や特記事項に記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者さんに少しでも早く新しい環境に慣れていただく為と事例が困難になって対応する事のないように入居の際、ご家族から得た情報をフェイスシートで何度も読み返し、職員間で情報の共有を行っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状維持が保たれているかどうか等、毎朝、バイタルチェックを行い個人記録等に記入している。状態変化時は申し送り帳を通じ、朝礼時や施設内研修時にて把握・検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、御家族の要望・希望と現状に必要とされる介護計画を、職員アンケートや日々の職員同士の会話・記録より介護計画を作成している。計画変更前に担当職員さんがその総合経過をまとめ、計画者が精査し計画作成を行っている。毎月の施設内研修にて計画に対する意識統一を行っている。	利用者を担当している職員と計画作成担当者を中心に随時、朝礼時等にカンファレンスを行い、利用者の思いや家族の意向、かかりつけ医の意見、職員アンケートの意見を参考にして、全職員で話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直している。利用者の状態や要望に変化があれば、そのつど見直しを行い、現状に合った介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員一人一人が個人記録に細かく記入し情報を共有しながら実践や見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の要望・様態に応じ、職員の意見を出し合い、その日の朝礼時に決定・変更・実行したりしている。小規模だからこそ行える「柔軟な姿勢」を活かしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽療法、相談員、傾聴ボランティア、日本舞踊、小学生、幼稚園児、美容師(2ヶ月に1回)マッサージ等、地域の人と触れ合う機会を設けている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の説明と共に日々の健康相談、定期受診、緊急時の往診、入院時の紹介状等すみやかに行える様、常に連携している。	本人、家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関では、月1回の定期受診の他、夜間、休日、緊急時、必要に応じて往診の対応や入院の支援をしている。受診時は、事業所の看護師(管理者)が同行し、口頭で情報提供を行っている。協力医療機関以外のかかりつけ医受診や他科受診で家族の協力を得る場合は、必要な情報提供を行い、事業所が支援する場合は家族に受診結果を報告している。看護師は毎日健康管理を行い、状態の把握やかかりつけ医への連絡、夜間や緊急時の情報提供などの対応を行い、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の朝礼時、身体変化時等、常に看護師の指示を受けるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病院のケースワーカーさん看護師さんと連絡を密に行い、面会しては状態、状況把握に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の要望があれば看取りまで行っており、家族との連絡体制や医療連携等、検討や準備を行い安らかに旅立ちご家族が悔いを残されないように出来るだけ付き添って頂いている。終末期の方においては個別の緊急時の対応・方法・マニュアルを作成している。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族やかかりつけ医、看護師など職員、関係者と話し合い、方針を共有して、医療機関への移設を含め、看取りの支援をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	普通救命講習受講に参加している。申し送り帳を活用し未然に事故防止に努めている。ヒヤリハットの活用と、ケアマネジメントの充実を行っている。	事例が生じた場合はヒヤリ・ハット報告書、事故報告書に発生の内容や対応を記録し、申し送り帳を活用して全職員に周知し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。職員は毎年交替で消防署主催の救急救命法とAEDの取り扱いの講習をうけている。看護師が講師となり、誤嚥時の対応など応急手当の訓練を実施しているが、日常起こりうる事故発生に対して全職員が実践力を身につけているとはいえない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成28年3月6日、消防署員10名、消防団員115名と合同避難訓練を実施することが出来た。	年2回消防署の協力を得て夜間の火災を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練、避難経路の確認、防災機器の扱い方、消化器の使い方などを運営推進会議のメンバー、地域の消防団、職員が参加して行っている。運営推進会議で災害対策について意見交換を行い、火災発生時には地域の消防団への連絡網はできているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんは人生の先輩として教わることも多くあり、声掛けに対しては常に気を配るようにしている。	職員は内部研修や毎日の朝礼での施設長の訓示で人格の尊重やプライバシーの保護について確認し、毎月全職員に「虐待リスクアンケート」を実施して、日頃のケアを見直し、虐待の未然防止に努めている。利用者を人生の先輩として尊敬の念を持ち、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話、レクリエーション等を通じ自己決定や希望等を引き出して聞いている。自己の感情が出やすいように、信頼し合える人間関係作りを行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の心のゆとりが他の人のペースに合わせることが出来たり、事故防止・チームワーク形成に繋がる事を常に念頭においている。その人らしい日々の過ごし方を大切に、私情をはさまない支援を提供している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんに対する身だしなみへの関心、興味が無くならないよう気をつけ褒める声かけを行っている。衛生、健康、身だしなみは毎日、目配り、気配りしている。化粧に興味・関心ある方には支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルに花を飾り、イベントや毎週金曜日のカレー等手伝って頂いている。食事の準備・片付け、食器洗い、拭き、下膳できる人は自分で行って頂くよう毎日の日課としている。外出支援での外食、月1回の昼食購入を目的とした買い物を行っている。	昼食や夕食の副菜は配食を利用し、朝食と三度のご飯や汁物は事業所で調理している。献立に郷土料理や季節食を取り入れ、畑で採れた野菜で一品加えたり、食べやすいように形状を工夫している。利用者は野菜の下ごしらえやテーブル拭き、配膳、下膳、食器洗い、お盆拭きなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルについて会話をしながら一緒に食事をしている。毎週金曜日は「カレーの日」とし、地域の来訪者と一緒に食べたり、月に一度はスーパーに出かけて好きな昼食やおやつを選んでいる。おやつづくり(おはぎ、スポンジケーキ、カップケーキなど)を一緒にに行い、外庭やおかでら喫茶でのお茶会、外出時の外食、誕生日のケーキづくり(デコレーション飾りをつける)、季節行事食(節句、ソーメン流しなど)食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた量、形状を提供している。状態に合わせて飲み込みの悪い方には、刻み食、水分にはトロミをつけ、出来るだけ自力で摂取して頂き残量を介助している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の30分後、利用者さんに声をかけ働きかけをし、出来ない所はしっかりと支援し清潔を保持している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に記入し排泄パターンを知り、声かけ・誘導・個々にあったパット等を話し合い柔軟に対応している。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、習慣を活かして、羞恥心や不安に配慮した言葉かけや対応を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	動かない生活ではなく、一人一人にあった、お手伝いや体操・レクリエーション・個々の機能訓練にて予防している。午前・午後とお茶・紅茶・コーヒーと選んで頂いている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	行事などの都合もあるが、基本は午前中に入浴して頂き入浴日も決まっている。強要はせず他の方と変更・入浴回数増するなど柔軟に行っている。希望に応じ足浴も行っている。	入浴は、日曜日を除いて毎日、10時30分から11時30分までの間可能で、希望や体調に合わせて入浴支援をしている。順番や湯加減を配慮し、入浴剤で色や香りを楽しんだり、季節に応じて柚子湯にするなど入浴が楽しめるように工夫している。入浴したくない人には時間をずらしたり、職員が交代して言葉かけするなど工夫して対応している。利用者の状態に応じて清拭や足浴、シャワー浴、リフト浴など一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠して頂くために日中に適度な機能訓練を行って頂いている。昼夜逆転にならない範囲で休息をとっていただいている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容が把握できるようファイルに保管している。個人記録に内服欄を設け、飲み忘れ・服薬支援の統一を図っている。服薬の中止・追加・変更があった場合は職員同士の情報共有の徹底をしている。薬情報ファイルを活用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換の外出支援の実施、趣味の畑仕事・盆栽・料理の下ごしらえ、洗濯干し、洗濯たたみ等の役割の提供、ボランティア受け入れを行っている。外出支援では、外食にて入居者さまのリクエストにそえるように楽しんで頂いている。	テレビ(相撲、水戸黄門)、DVDの視聴、新聞、雑誌を読む、塗り絵、貼り絵、ちぎり絵、かるた、パズル、ゲーム、脳トレ(漢字、計算)、歌、棒体操、口腔体操、風船バレー、パットゴルフ、散歩、外出、昼食やおやつの買い物、お茶会、お誕生日会、季節行事(盆踊り、運動会、そうめん流しなど)、ボランティアの来訪、幼稚園児や小学生、中学生との交流、音楽療法、紙芝居、昔話、洗濯物干し、洗濯物たたみ、畑の世話、野菜の収穫、盆栽の手入れ、犬の世話(ゲージの掃除、水やり)、花を生ける、花の水やり、新聞紙でゴミ袋づくり、食事の準備、後片付けなど、利用者の喜びや張り合いとなる楽しみごと、活躍出来る場面をつくり、支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者さんの希望を把握し職員と一緒に庭の散歩やグランドまでの散歩など取り組んでいる。各入居者様のレベルに添った外出支援・散歩等、柔軟に取り組めるよう努めている。買い物(月1回)や季節に咲いた花を見に行く等。	近隣への散歩やスーパーマーケットへの買い物、外食、季節の花見(梅、桜、芝桜、紫陽花、紅葉など)やドライブ、初詣、下松健康パーク、徳山動物園、幼稚園・小学校の運動会、地域の盆踊り、大工をしていた時に建てたお寺を見に出かけている。家族の協力を得て、一時帰宅、買い物、馴染みの美容院、外食、結婚式、法事、墓参りに出かけるなど本人の希望に添って外出できるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物(月1回)に出られた時は、利用者様の欲しい物が買えるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末にはご家族へ年賀状を書いて頂き、中には携帯電話を自分で持たれている方もいらっしゃる。ご家族から、プレゼントや贈り物が届いた際、写真を撮り届いた知らせを郵送している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの上には季節の花を飾り季節感を採り入れ、トイレ内に消臭剤、暑くなれば網戸にし風通しをよくしている。	食堂兼居間は広くて明るく、大きなガラス窓からウッドデッキに置いてある野鳥の巣箱や、雀が餌をついばむ様子が見える。室内には大きな机や椅子、テレビ、ソファが配置してある。どの机の上にも季節の花が生けてあり、大きな窓から見える外庭の庭木や花、盆栽、田園風景に季節を感じることができる。壁面には利用者の作品や絵画が飾っており、2つのユニットは廊下で繋がり、犬のゲージや電子ピアノ、机やソファが置いてあり、自由に行き来でき、思い思いの場所でくつろいで過ごすことができる。温度、湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間(スペース)が広くゆっくりと寛げる空間作りをしている。又、共同作業が出来るようにも心がけている。ソファの活用、テーブルの分割や席の工夫を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出のある写真や物、寝具などの思い出のある物。あるいは使い慣れた物を持参して頂いている。	部屋にはベッド、寝具、衣装ケース、テーブル、イス、テレビ、鏡台、時計、衣類、趣味の道具など自宅で使い慣れたものや好みのものを持ちこんでいる。壁のコルクボードには思い出の家族写真やハガキ、誕生日カード、色紙やカレンダーを貼って、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりがあり、共用空間の位置がわかりやすいように名札を取り付けている。混合の可能性のあるもの及び、衣装ケースには種類別の名前を記入したり貼っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームおかでら荘

作成日: 平成 28 年 11 月 16 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え →全職員を対象にした応急手当や初期対応の 定期的訓練の継続を期待します。	①事故防止 ②事故発生時の備え ③応急手当や初期対応	①毎月夜間、施設内研修追加実施。認知症知識・介護力向上、サービス計画統一を行う事で 事故防止(リスク軽減・回避・危機管理意識向上)を行う。 ②引き続き、毎朝の朝礼の充実にて備える。 ②マニュアルの見直しを行う。 ③引き続き、選抜職員の普通救命講習への参加を行う。	1年
2	36	○災害対策・・・地域との協力体制の構築 →地域との協力体制の構築を期待します。	引き続き ①地域の方に当施設内を知って頂く。 ②認知症の方への関心を深める	引き続き ①②地域ボランティアの受け入れの充実。 ② 地域住民とのふれ合い(毎月1回、近隣の スーパーに昼食をメインに買物実施)を行います。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。